

## 5. 障害の有無に関わらず誰もが活躍できる山梨の将来像について 甲府南高校

私は、障害者であっても自分なりに働ける場所の確保をすることが必要だと考えます。私の学校には毎週金曜日、きららベーカリーというパン屋がパンを売りに来ています。きららベーカリーでは就労支援B型に該当する、自分の体調や自分のペースに応じて働きたいと考える障害者を雇用しており、パン並べや会計作業を行っています。常にパンを求める生徒で長蛇の列ができ、時には売り切れることもあります。喜ぶ生徒の姿も見ることができ、少なくとも、自分のやっていることはつまらないものだ、また、自分のやっていることには意味がないというふうには思っていないと思います。少なからずやりがいを感じていると思います。

自分のできることを通して社会に貢献していくということ。これがまさに、だれもが活躍できる山梨県を実現するために必要不可欠な考え方だと思います。その一歩目として、障害のある方の働き場所の確保が必要だと思います。

私は将来臨床医として、だれもが活躍できる社会を、そして長く楽しい生活を送れる日々をサポートしていきたいと考えています。働く人のサポートをそのような観点からしていけたらと思います。



## 6. 通信制課程のG I G Aスクール構想への組み入れについて 中央高校

私が通う中央高校通信制の生徒の家庭は経済的に困窮している場合が多く、パソコン端末やスマートホンの購入、家庭内での通信環境整備を行うことが厳しい状況にあります。また、スクーリングによる登校日数も限られており、全日制、定時制課程と比較し頻繁にパソコン端末を使うことはありません。そのため、県のG I G Aスクール構想による「BYOD」いわゆる、個人購入による1人1台端末使用の対象外となっています。

しかしながら、I C Tの活用能力は現代社会において必須的なものであり、通信制課程にこそ最大の効果を発揮できるものと考えます。よって、I C Tを活用した授業ができる環境の整備を推進してもらいたいです。

熊本県では本年度より、唯一未配備だった県立通信制高校の全生徒に端末の配備がされています。山梨県でもぜひ、検討をお願いします。



## 7. 共生社会の実現について～在留外国人の日本語指導ボランティアへの活用～ 身延山高校

私は今までに外国から来た子ども達を何人も見てきました。私自身の体験も含め、一番気になったことは言葉の壁でした。日本語ができない、しゃべれないことで、クラスメイトとうまくコミュニケーションがとれず、孤独感を感じてしまう子が多くいます。家庭では母国語しか話さないため、日本語の上達があまり望めないのが現状です。そんな時に私は「もっと通訳者が多くいてくれたら、あるいは日本語教室がもっと身近にあったら」と思いました。私自身幼い頃、日本語教室に通ったことで本当に助かりました。その方々から「力」を頂いたことで、今の私がいます。

日本語を習得することで、コミュニケーションが取れるようになり、お互いの理解が進みます。そこで、私は在留外国人を言語ボランティアとしてもっと活用することを提案します。



## 8. 18歳人口の流出とリターン就職への提言 山梨学院高校

私は一生山梨で生活したい。そう思う18歳は私だけではないはずだ。

山梨には7校の大学があるが、東京都内には143もの大学があり、難関国公立大学が魅力的に受験生を誘惑する。

山梨県民の大学進学率は全国トップクラス、男子は東京に次ぐ75.5%が、女子も59.4%と高等教育を修めようとする県民意識は、長崎知事の義務教育での少人数教育の拡大でより醸成されるだろう。山梨が好きだと思いながら進学で転居せざるを得ないのだ。

そこで私は山梨県オリジナル、県外進学者向け奨学金制度を提案する。貸付時の審査では山梨県で就職するという条件を付けリターン就職者に対しては利息を免除する。5年以上県内企業に就業したら一時金の支給、いや、貸付金の一部免除を行う。勿論、県外就業者からは所定の利息を含む全額返済を約束させる。

このような政策で20代の山梨県愛県者を増やせたらと考えます。



## 9. 若者の献血推進について 日本大学明誠高校

私は、「若者の献血推進」について提言をしたいと思います。恥ずかしながら私は、今回 献血のことを調べるまで、献血が16歳からできることを知りませんでした。そこで私の主張は、小学校から学校教育の場で、もっと献血について学ぶ機会を設けるべきだということです。

献血の大切さはもちろん、採血がどのようにつかわれているのか、現状どのくらい不足しているのかを、もっと保健体育の授業や、LHRなどの学校教育で周知していくべきであると感じます。

また、山梨県では、県大会やインターハイの他に総合体育大会や芸術文化祭など高校生が一堂に集まる行事が多数あります。その際、献血に関するリーフレットを配布したり、実際に献血車を派遣することで、より献血が身近であるという、感覚を持たせられるようになっていくと良いと考えます。



## 10. 中学生・高校生の放課後の居場所づくりについて 自然学園高校

私たちの通う自然学園は、梁川駅から徒歩15分の山の中にあります。周辺には、コンビニなど生徒が使える場所がありません。また、町民の通行もあまりなく、街灯が少ないため帰りの通学路がとても暗いです。学校にいられる時間は限られているので、梁川駅周辺やホームのベンチで電車を待つことになります。中央線や富士急線は待ち時間が長く、家族の迎えが必要な場合は、仕事が終わってからなので遅い時間になります。

中学生や高校生が巻き込まれる事件について耳にすることも増えました。放課後に勉強をしたり、補食を食べたりしながら、電車や家族の迎えを待つ時間を安全に過ごすことができる居場所づくりが必要です。

地域の環境を理由に進路選択を狭めることなく、それぞれの状況に応じた学校選択が可能になることにもつながると考えます。



## 11. パラスポーツを通じた共生社会の実現について 甲府支援学校

最近はバリアフリーの施設が増え、障害のある人でも過ごしやすい社会になっていると思います。その一方で、障害のない人が障害のある人にもっと関心をもってくれたら、より良い社会がつかれると思います。

例えば、パラスポーツでは、競技をする人と、それを支える人、応援する人がいると思います。僕は車イスを作ったり修理する仕事に興味があります。なぜなら今の僕の経験を活かせると思うからです。将来は、仕事をしながら、パラスポーツに関わる人や応援する人を盛り上げていき、パラスポーツをもっと広めていきたいです。そして、みんなが障害のある人に関心をもってくれることが、共生社会に繋がると 생각합니다。

